

1 青いヌプキナの沼



- ① かこさとし/著
- ② 復刊ドットコム
- ③ 2300円
- ④ E

まだ北海道がエゾと呼ばれていたころ、内地からきた侍たちが、アイヌの人を追い払ってしまった時代がありました。

その歴史を、かこさとしさんが、ヌプキナ(すずらん)の咲く湖のほとりで暮らすアイヌ兄妹の悲しい民話をもとに描いた絵本です。

2 いちご



- ① 荒井真紀/さく
- ② 小学館
- ③ 1500円
- ④ E

いちごを食べると、プチプチ音がします。この音は種を噛む音で、大きな実で約300粒の種があるそうです。いちごの苗から生長し、咲いた花から花びらが散り、花托が大きく膨らみ実がなり、いちごを収穫できるまでの一連の様子が記録されています。

3 インクレディブルホテル



- ① ケイト・デヴィス/文
ザベル・フォス/絵
山田詩子/訳
- ② B L 出版
- ③ 1600円
- ④ E

料理人見習いのステファンが毎朝5時にいれるコーヒーからすべてのことが時間通りに進むインクレディブルホテル。100周年の記念にパーティーを開くことになりましたが、大変なことが起こります。そのとき、ステファンは……。思いは届くと信じることができる、美しい絵が魅力的な1冊です。

4 さくらがさくと



- ① とうごうなりさ/さく
- ② 福音館書店
- ③ 1400円
- ④ E

普段桜の木を眺めることは少ないかもしれませんが、桜が咲き始めると、鳥たちが集まり通行人も歩みを止め、桜を眺めます。花見をしたり、夜は夜桜を楽しむ人が集まったりします。桜の木にたくさんの人が集まる賑やかな様子が描かれています。

5 チャーリー、こっちだよ



- ① キャリン・レイヴス/さく
チャールズ・サントリ/え
いわじょうよしひと/やく
- ② B L 出版
- ③ 1700円
- ④ E

心や体に傷をおった動物たちが、安心して暮らせる家「だれでもぼくじょう」の中で、心の傷のせいで、いつもひとりであるヤギのジャック。ある日、片方の目しか見えないウマのチャーリーがやってきます……。

お互いを補いながら、徐々に深まっていく友情に心を打たれます。

6 図書館のふしぎな時間



- ① 福本友美子/作
たしろちさと/画
- ② 玉川大学出版部
- ③ 1600円
- ④ E

国際子ども図書館で、本を読みながらお母さんを待っているゆりかのまえに、イギリスの古い本に住んでいる「すこしはものしり」という妖精があらわれ、そこからふしぎな図書館めぐりがはじまります。国際子ども図書館の内側や蔵書について楽しみながら知ることのできる絵本です。

7 7年目のランドセル
ランドセルは海を越えて、アフガニスタンで始まる新学期



- ① 内堀タケシ/写真・文
- ② 国土社
- ③ 2000円
- ④ E

日本で6年間使用したランドセル。日本全国から集まったランドセルはボランティアの方々の協力によりアフガニスタンに送り出されます。ランドセルの活用を通して就学率を上げるとともに、ランドセルがアフガニスタンの子供たちの希望のために役立っています。

8 ねえさんの青いヒジャブ



- ① イブティハジ・ムハムド &
S・K・アリ/文
ハテム・アリ/絵
野坂悦子/訳
- ② BL出版
- ③ 1600円
- ④ E

ねえさんのアシャは、新学期、青いヒジャブをつけて学校に行きました。しかし、学校では、ヒジャブを見て、悪く言ったり笑ったりする人もいました。それでも動じない姉の姿に、妹のファイザーは、強さと希望を感じます。偏見や差別のない社会を願って書かれた作品です。

9 ねこなんていなきやよかった



- ① 村上しいこ/作
ささめやゆき/絵
- ② 童心社
- ③ 1300円
- ④ E

飼っていたねこが死んでしまって悲しいのに、友だちの前では「ねこなんていなきやよかった」と強がってしまうわたし。でも、夜ご飯のとき、思い出しては暗い顔をしている家族を見たお母さんが言った一言で……。悲しみから逃げずに死を悼むことの大事さ、そして死を受け止める力をくれる1冊です。

10 はじまりはたき火
火とくらししてきたわたしたち



- ① まつむらゆりこ/作
小林マキ/絵
- ② 福音館書店
- ③ 1400円
- ④ E

火は石炭や石油を使い、自動車の動力や発電機で電気を作り生活に不可欠なものとなりました。しかし、排気ガスによる大気汚染の問題も発生しています。人間は火の力から様々な知恵を生み出しました。これからの地球のことを考えさせられる1冊です。

小学校低学年の本

①著者名 ②発行所 ③本体価格 ④請求記号

11 虫ガール ほんとうにあったおはなし



- ① ソフィア・スペンサー/文
マーガレット・マクマラ/文
ケラスコット/絵
- ② 岩崎書店
- ③ 1500円
- ④ E

ソフィアは、小さい頃から虫に夢中。でも、小学校に入るとそのせいで「変わっている子」扱いされてしまい、一旦「虫をお休み」することにしますが……。

好きなもの、夢中になれるものがあるということは、貫くのは難しいけれど、とても素晴らしいことだと思わせてくれる絵本です。

12 ふゆとみずのまほうこおり



- ① 片平孝/写真・文
- ② ポプラ社
- ③ 1500円
- ④ 45カ019

氷は場所や条件によって様々な形や色に変化します。また、太陽の光が当たると表面だけでなく内部からも溶けだし、始めは丸く、次第に花などの模様になります。花や魚の形をした「アイスフラワー」は、まるで氷の花。自然が作った氷の作品が楽しめる一冊です。

13 きみひろくん



- ① いたうみく/作
中田いくみ/絵
- ② くもん出版
- ③ 1100円
- ④ 91イ019

ぼくの友達きみひろくんは、優等生だけど、ぼくにだけちょっと笑っちゃうようなうそをついてきます。でも、そんなきみひろくんがとんでもないことを打ち明けてきたのです。それは本当なの？二人の物語を通して、「友達」や「家族」について考えるきっかけを与えてくれる1冊です。

14 あらいぐまのせんたくもの



- ① 大久保雨咲/作
相野谷由起/絵
- ② 童心社
- ③ 1100円
- ④ 91オ019

コインランドリーにやってきたおばあさんの前に1匹のあらいぐまがあらわれて、「かなシミ」がしみこんだハンカチをあらってほしいと頼みます。せんたくとおばあさんのおかげで、ハンカチのシミもあらいぐまの気持ちも軽くなったようです。優しい気持ちと勇気をくれる1冊です。

15 しらゆきちりか ちっちゃいな



- ① 薫くみこ/作
大島妙子/絵
- ② PHP研究所
- ③ 1200円
- ④ 91ク020

小学校1年生のちりかは、後ろの席のライオンみたいなさずきくんに、いつもちょっかいばかりだされることや「ちびか」と呼ばれることがいやでたまりませんでした……。

少しずつ接することで、さずきくんの心優しい一面に気付いていくちりかの姿に、読者も温かい気持ちになる物語です。